ふきのとう

五月一八日（月）　　二年　　くみ（　　）

①「どんな　とうじょうじんぶつが　出てくるか」
「どんな　ことを　はなしているか」を　さがしながら　一回　音読しましょう。

②どんな　とうじょうじんぶつが　出てきましたか。

③とうじょうじんぶつは　どんなことを　はなしていますか。

とうじょうじんぶつ	はなしていること

とうじょうじんぶつ	はなしていること

④とうじょうじんぶつが　はなしていることに　気をつけて　もういちど　音読しましょう。

とうじょうじんぶつ	はなしていること

とうじょうじんぶつ	はなしていること

とうじょうじんぶつ	はなしていること

1

いなばの　白うさぎ

名前

● 読んだ　お話の　お気に入りの　ところと、その　わけを　しょうかいしましょう。

本の　だいめい	
読んだ　日	
出て　くる　じんぶつ	
お気に入りの　ところ お気に入りの　わけ	
名前	より

2 ふきのとう

名前

● 音読の　くふうを　書きましょう。

よが　あけました。
あさの　ひかりを　あびて、
竹やぶの　竹の　はっぱが、
「さむかったね。」
「うん、さむかったね。」
と　ささやいて　います。
雪が　まだ　すこし　のこって、
あたりは　しんと　して　います。
どこかで、小さな　こえが　しました。
「よいしょ、よいしょ。おもたいな。」
竹やぶの　そばの　ふきのとうです。
雪の　下に　あたまを　出して、
雪を　どけようと、ふんばって　いる　ところです。
「よいしょ、よいしょ。そとが　見たいな。」

音読のくふう

音読のくふう

音読のくふう

音読のくふう

3 ふきのとう

● 音読の　くふうを　書きましょう。

名前

「ごめんね。」
と、雪が　言いました。
「わたしも、早く　とけて
水に　なり、とおくへ　行って
あそびたいけど。」
と、上を　見上げます。

音読のくふう

「竹やぶの　かげに　なって、
お日さまが　あたらない。」
と　ざんねんそうです。

音読のくふう

「すまない。」
と、竹やぶが　言いました。
「わたしたちも、ゆれて　おどりたい。
ゆれて　おどれば、雪に　日が　あたる。」
と、上を　見上げます。
「でも、はるかぜが　まだ　こない。
はるかぜが　こないと、おどれない。」
と　ざんねんそうです。

音読のくふう

音読のくふう

音読のくふう

4 ふきのとう

名前

● 音読の　くふうを　書きましょう。

音読のくふう

空の　上で、お日さまが　わらいました。
「おや、はるかぜが　ねぼうして　いるな。
竹やぶも　雪も　ふきのとうも、みんな
こまって　いるな。」
そこで、南を　むいて　言いました。
「おうい、はるかぜ。おきなさい。」

音読のくふう

お日さまに　おこされて、
はるかぜは、大きな　あくび。
それから、せのびして　言いました。
「や、お日さま。や、みんな。おまちどお。」
はるかぜは、むね　いっぱいに　いきを　すい、
ふうっと　いきを　はきました。

音読のくふう

5 ふきのとう

名前

● 音読の　くふうを　書きましょう。

はるかぜに　ふかれて、
竹やぶが、ゆれる　ゆれる、おどる。
雪が、とける　とける、水に　なる。
ふきのとうが、ふんばる、せが　のびる。

音読のくふう

ふかれて、
ゆれて、
とけて、
ふんばって、
—もっこり。

音読のくふう

音読のくふう

ふきのとうが、かおを
出しました。
「こんにちは。」

もう、
すっかり　はるです。

ふきのとう

五月一八日（月）

二年　二くみ（えんどう なほ子）

①「どんな　とうじょうじんぶつが　出てくるか」
「どんな　ことを　はなしているか」を　さがしながら　一回　音読しましょう。

例

②どんな　とうじょうじんぶつが　出てきましたか。

ふきのとう				

③とうじょうじんぶつは　どんなことを　はなしていますか。

とうじょうじんぶつ	はなしていること
ふきのとう	「よいしょ、よいしょ。おもたいな。」

とうじょうじんぶつ	はなしていること

2 ふきのとう

名前 えんどう なほ子

(例)

● 音読の くふうを 書きましょう。

よが あけました。
あさの ひかりを あびて、
竹やぶの 竹の はっぱが、
「さむかったね。」
「うん、さむかったね。」
と ささやいて います。
雪が まだ すこし のこって、
あたりは しんと して います。
どこかで、小さな こえが しました。
「よいしょ、よいしょ。おもたいな。」
竹やぶの そばの ふきのとうです。
雪の 下に あたまを 出して、
雪を どけようと、ふんばって いる ところです。
「よいしょ、よいしょ。そとが 見たいな。」

音読のくふう
小さい声で
ふるえるように

音読のくふう

音読のくふう

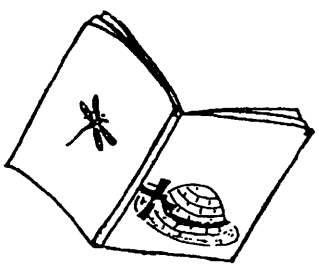
音読のくふう

三 「は・を・へ」の つかいかた

◆ ことばと ことばを つなぐときは
「わ」は「は」・「お」は「を」・「え」は「へ」の
字を つかいます。
（ぼくは、ほんを ここへ おきました。）

(1) こえを だして よんで みましょう。

・わたしは、ほんが すきです。
・ほんを ここへ おいて ください。



(2) ただしく かきなおしましょう。

①わしわ、とりです。

②ておあらいます。

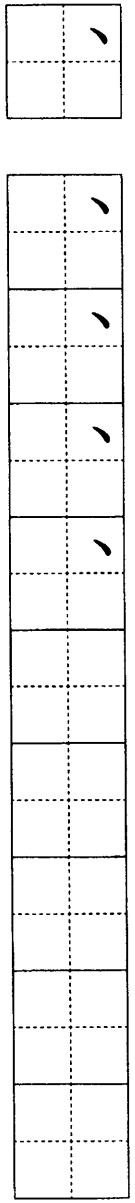
③こうえんえいきます。

四　てん（、）の　うちかた　（　　）

◆　文の「～は」、「～が」、の　あとには　てん（、）を　うつことがおおいです。

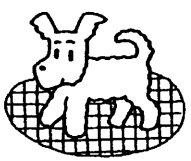
◆　「それから」「そして」などの　つなぎことばの　あとには、てん（、）を　うちます。

(1)　てんを　うつ　ばしょに、気を　つけましょう。

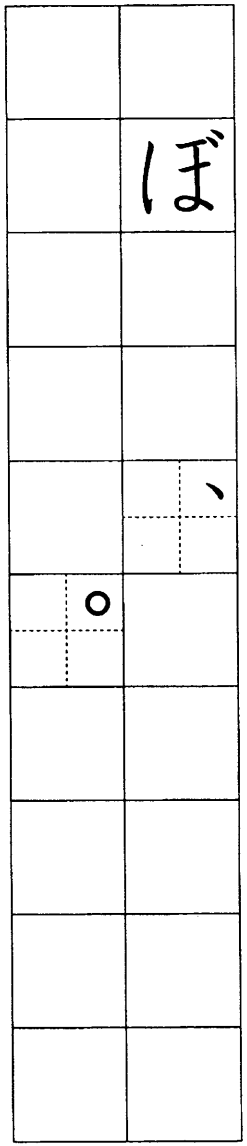


(2)　つぎの　文を　かきうつしましょう。

・ぼくは、こうえんへ　いきました。



(3)　つぎの　文の中で　てんを　うつほうが　よい　ところに　てんを　かきましょう。



・おとうとが　すべりだいに　のりました。
それから　すなばで　あそびました。

五　まる（。）の　つけかた

◆　文の　おわりには　まる（。）を　かきます。

◆　まる（。）は　一ます　つかいます。

(1)　まるを　かく　ばしょに　気を　つけましょう。

◎

。

。

たねをまきました。

(2)　つぎの　文を　かきうつしましょう。

①はなが、さきました。

・かくときには　あいだを　あけないで　かきます。

・てん（、）やまる（。）が　一ばん上に　くるときは、下のますに　かきます。

②ライオンの　おやこが、ひるねを　していました。

	ラ
	、

六　げんこうようしの　つかいかた　1

◆「だい」は、一ぎょうめに　上から　二ます　ぐらい　あけて　かきます。

◆名まえは、二ぎょうめの　下の　ほうに　かきます。みょうじと　名まえの　あいだは、一ます　あけて　かきます。

名まえのしたを　一ます　あけて　かきます。

(1)　げんこうようしに　かいて　みましょう。

①だいめいと　名まえを　かきましょう。

・だいめい　←　わたしのたからもの

・名まえ　←　しまだ　あい

②じぶんの　名まえを　かきましょう。

七　げんこうようしの　つかいかた　2

◆　はじまりは、
一ます　あけて　かきます。

(1)　下の　文を、げんこうようしに　かきうつしましょう。

かたつむり

みずた　さき

かたつむりが、ベランダにました。わたしは、「がっこうに、もっていっていい。」と、おかあさんにききました。でも、かわいそうなので、そのままにしておくことにしました。